

2012 FIA F1世界選手権シリーズ第15戦 日本グランプリレース メディアインフォメーション Vol.13

2012年10月1日
株式会社モビリティランド
鈴鹿サーキット

F1日本グランプリ最新見どころ



ランクトップF・アロンソを追うS・ベッテル、L・ハミルトン、そしてK・ライコネン！ 2012年F1は本命不在の大混戦！

2012年シーズンも昨年までと同様にレッドブルが強さを見せるかと思われたが、開幕戦を制したのは昨年後半から速さを見せ始めたマクラーレンのJ・バトンだった。続く第2戦はフェラーリのF・アロンソが優勝。そして第3戦で優勝したのは伏兵N・ロズベルグ(メルセデス)。チャンピオン候補筆頭に挙げられていたベッテルが優勝したのはやっと第4戦。ここからベッテル&レッドブルの快進撃が始まるか！？と思われたが、混戦はその後も続くことになった。第5戦でウィリアムズのP・マルドナードが優勝を飾ると、第6戦はM・ウェバー(レッドブル)、第7戦はL・ハミルトン(マクラーレン)が優勝。なんと第7戦まで毎回優勝者が違う序盤戦となったのだ。



開幕戦優勝のバトン



第2戦優勝のアロンソ



ベッテルは第4戦で優勝



この混戦は第8戦以降も続き、第14戦終了時点でアロンソが2勝を挙げるとともに、着実に上位入賞を重ね194ポイントを獲得してランキングトップ。第14戦でやっと2勝目を挙げたベッテルが29ポイント差の2位。3位以下は大接戦で、優勝はないもののコンスタントにポイントを重ねたK・ライコネン（ロータス）が3位、3勝を挙げながらも浮き沈みの激しいハミルトンが4位。ウェバー、バトンが5位、6位で続いている。



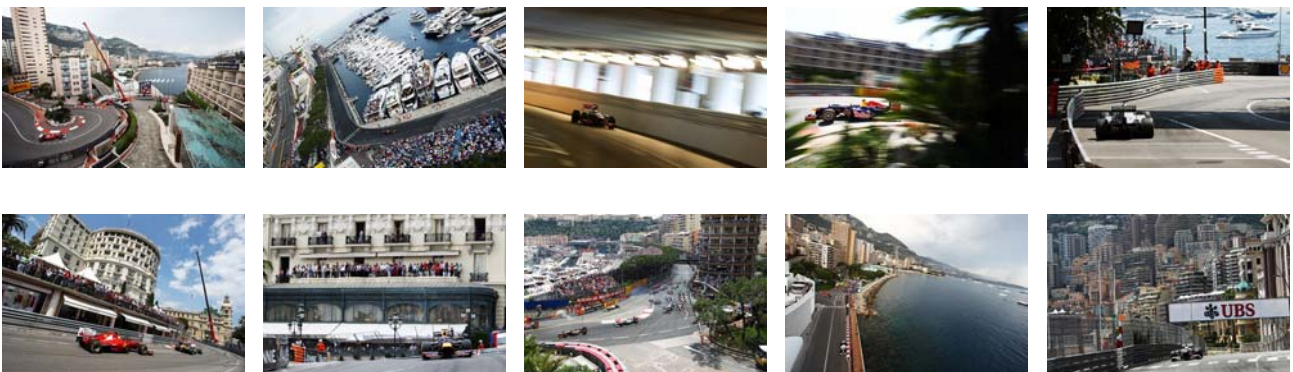
ランキングトップのアロンソ



ランキング2位のベッテル



ランキング3位のライコネン



アロンソが復活するか？ 優勝を狙うベッテル、ハミルトン、ライコネン 今年も鈴鹿日本GPがタイトル争いのカギを握る！



鈴鹿で苦戦が予想されるアロンソ



鈴鹿を得意とするベッテル(左)とライコネンが逆転タイトルを目指す



鈴鹿ラウンドを入れて残り6戦。獲得できるポイントは最大150となるため、ランキングトップのF・アロンソもうかうかしてられない。事実第11戦からは大量ポイントを獲得できていない状況が続いている。対してレッドブルとマクラーレンは鈴鹿サーキットを得意としておりベッテル、ハミルトンが一気にポイント差を縮めてくる可能性もあるのだ。さらに鈴鹿に似たコースレイアウトのスパ・フランコルシャン(ベルギーGP)で予選4位、決勝3位の好成績を残したライコネンも優勝争いに絡んできそうだ。2005年の日本GP、予選17位に沈んだライコネンは決勝で次々と前車をパス。M・シューマッハ、アロンソとの死闘を制して見事に優勝を飾った。その再現を視野に鈴鹿に乗り込んでくるのは間違いない。



鈴鹿が得意なマクラーレンを駆る
ハミルトン



一方ここ数戦の状況から苦戦が予想されるアロンソは、今年チームに新加入した元ブリヂストンタイヤの浜島裕英氏に期待だ。鈴鹿攻略法を誰よりも知っている浜島氏の力で予選上位に食い込んでライバルたちの追撃をかわしたいところ。逆にベッテル、ライコネン、ハミルトンは得意の鈴鹿を制してアロンソとのポイントを少しでも縮めて逆転タイトルにつなげたい。さらにはウェバー、バトンも優勝を狙ってくるはず。シリーズタイトルのカギを握ると言っている鈴鹿F1日本GP。ドライバー達の意地をかけた激しい優勝争いが繰り広げられるのは間違いないだろう。

**第10戦で決勝4位、第12戦で予選2位を獲得。
 小林可夢偉がファンの大声援とともに初表彰台、
 いや一気の初優勝に向けて鈴鹿を駆け抜ける！**



サウバーでF1フル参戦3年目を迎えた小林可夢偉。ここまで何度も表彰台どころか優勝の可能性もある走りを披露してくれた。今シーズンも第5戦スペインGPでファステストラップも記録し5位でチェッカー。第10戦ドイツGPではトラブルで予選12位となったが、決勝で怒涛の追い上げを見せ、表彰台まであと一步の4位を記録したほどだ。他にも予選では第3戦中国GPで3位を記録すると、第12戦ベルギーGPではなんと2位。この速さが決勝で生かせれば結果は付いてくるはずだ。第13戦イタリアGP、第14戦シンガポールGPでは思うような戦いができなかったが、鈴鹿は違う。可夢偉と言えば鈴鹿、鈴鹿と言えば可夢偉。そう言われるほどファンの声援が強力に可夢偉の背中を押す。2010年ヘアピンコーナーで見た豪快な5回ものオーバーテイクショーは今でも鮮明に記憶に残っているほどだ。「確かに鈴鹿はグランプリの1戦でしかないけど、ファンの応援が僕を後押ししてくれるのは間違いない」と可夢偉は語った。マシンの相性も抜群の鈴鹿、初表彰台、いや今季の走りを見る限り一気の初優勝も期待できそうだ。



ドライバーズチャンピオンシップ ポイント表

※第14戦シンガポールGP終了時点

Rank.	ドライバー(チーム)	Rd.	Rd.	Rd.	Rd.	Rd.	Rd.	Rd.	Rd.	Rd.	Rd.	Rd.	Rd.	Rd.	Rd.	合計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
		オーストラリア	マレーシア	中国	バレーン	スペイン	モナコ	カナダ	ヨーロッパ	イギリス	ドイツ	ハンガリー	ベルギー	イタリア	シンガポール	
1	F・アロンソ(フェラーリ)	10	25	2	6	18	15	10	25	18	25	10		15	15	194
2	S・ベッテル(レッドブル)	18		10	25	8	12	12		15	10	12	18		25	165
3	K・ライコネン(ロータス)	6	10		18	15	2	4	18	10	15	18	15	10	8	149
4	L・ハミルトン(マクラーレン)	15	15	15	4	4	10	25		4		25		25		142
5	M・ウェバー(レッドブル)	12	12	12	12		25	6	12	25	4	4	8			132
6	J・バトン(マクラーレン)	25		18		2			4	1	18	8	25		18	119
7	N・ロズベルグ(メルセデス)			25	10	6	18	8	8		1	1		6	10	93
8	R・グロージャン(ロータス)			8	15	12		18		8		15			6	82
9	S・ペレス(ザウバー)	4	18					15	2		8			18	1	66
10	F・マッサ(フェラーリ)				2		8	1		12		2	10	12	4	51
11	P・ディ・レスタ(フォースインディア)	1	6		8		6		6				1	4	12	44
12	M・シューマッハ(メルセデス)		1		1				15	6	6		6	8		43
13	小林可夢偉(ザウバー)	8		1		10		2			12			2		35
14	N・ヒュルケンベルグ(フォースインディア)		2			1	4		10		2		12			31
15	P・マルドナード(ウィリアムズ)			4		25										29
16	B・セナ(ウィリアムズ)		8	6			1		1	2		6		1		25
17	J・ベルニュ(トロロッソ)		4										4			8
18	D・リカルド(トロロッソ)	2											2		2	6
	J・ダンブロジオ(ロータス)															0
	H・コバライネン(ケーターハム)															0
	V・ペトロフ(ケーターハム)															0
	P・デ・ラ・ロサ(HRT)															0
	N・カーティケヤン(HRT)															0
	T・グロック(マルシャ)															0
	C・ピック(マルシャ)															0

獲得ポイント

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
ポイント	25	18	15	12	10	8	6	4	2	1